

群馬県中小企業団体事務局長会 県内視察研修

群馬県立高崎高等特別支援学校

知的障害のある生徒が就労・自立を目指して学ぶ、「高等部単独の知的特別支援学校」。高崎市柴崎町にあり、豊かな自然に恵まれた田園地帯に位置している。校舎は、周囲環境に溶け込む美しさを持つ木造建築。



2月17日、群馬県中小企業団体事務局長会は、県内視察研修を実施した。視察先は、群馬県立高崎高等特別支援学校。

令和3年3月1日より民間企業の法定雇用率は2.3%となり、令和6年4月からは2.5%に引き上げられる予定。多くの企業において、障害者雇用は経営上の関心事の1つとなっている。そこで、組合事務局として特別支援学校の現状を把握し、学校と関係づくりを進め、それを組合に持ち帰ることにより組合員各社の人材確保の一助なることを目的に本視察研修を実施した。

開会にあたり同校・渡邊敬子校長が挨拶、学校の概要を説明。この中で、同校では「職業自立、職場で求められる力をつける」「企業で貢献できる人材を育てる」ことに力を入れており、生徒には「報・連・相」「メモをとること」を徹底させているなどの説明があった。

請もあったことから、参加者は作業内容等について生徒に積極的に質問などしていた。



食品加工の作業学習を見学



農業園芸の作業学習を見学



木工の教室で生徒の発表を聞く参加者



被服の作業学習を見学



渡邊校長



説明を聞く参加者

続いて、参加者が2班に分かれ食品加工、農業園芸、木工、被服の作業学習の様子を見学。それぞれの作業学習の教室では、生徒が現在学んでいる実習内容等について発表。学校より、作業学習中の生徒に質問、声かけ等してもらいたいとの要

見学後、進路指導主事・星益美先生が同校の現場実習、就職状況等について説明。続いて生徒2名が、実際に企業に赴き体験した現場実習について報告。実習にて取り組んだ内容等について発表した。最後に、就労支援員・山内弘夫氏より障害者雇用に関する各種補助金制度等について説明があり、視察研修を終了した。